

9月28日校長講話 「ひときれのメロン」

日野小学校長 上野 浩

今日はメロンの話をします。

先週の火曜日、校長室に一切れのメロンを持ってやってきた人がいました。そのメロンはラップにくるまれていました。

「ぼくが育てたメロンです。食べて下さい」と言ってね。

どうやらそのメロンは、買って来たメロンでなければもらったメロンでもないのです。

種からその人が育てたメロンなのです。しかも、その種は、1学期の6月8日の火曜日。給食でメロンが出たのを覚えていませんか。実はその時の種から育てたメロンだったのです。

その種から、こんな立派なメロンが育ったというのです。これを24個に分けてクラスのみんなにも味わってもらったというのです。

校長先生は驚きました。どのように育てたのか想像してみたくになりました。なんと、その種をペットボトルに土を入れて埋めたそうです。

教室のベランダで育てたというのです。

毎日水をくれていたら芽が出てきたそうです。そして葉っぱが出てきた。夏休みに入ります。それを家に持ち帰って、家の庭に植え替えたそうです。すると、夏の間にもみるみる成長していき、メロンの実がついて大きくなっていきました。そしてこのように食べられるメロンになったというのです。

校長先生は、「こりゃあすごい。この子にはかなわない」と思いました。

校長先生なんかは給食の時、何気なく食べていたメロンです。

その種を植えてみようと考えた頭。こんなになるまで育て続けた粘り強さ、この探求心・チャレンジ精神。かなわないと思いました。

「ひときれのメロン」



その人がメロンを届けて帰った後、その一切れのメロンを机の上に置き、しばらく眺めていました。そして味わってみました。口の中でとけるように甘かった。



実はこのペットボトルに、校長先生も種を植えたのです。その人からいただいたメロンの種を校長先生も同じように植えてみました。

これから寒くなるので、その人のように芽が出てメロンになるかわかりませんが、育ててみたいと思います。もしかしたら、来年の春か夏に芽が出てくるかもしれないと期待しているのです。



給食に出たメロンの種からメロンの実が育ち、その種からまた実になったら素敵だと思いませんか。

一つの種からメロンの命をつなげていく。もしかしたら、私たち人間は、つながっていく命をいただき、成長させてもらい生きているのかもしれない。

つながる いのち
いのちをいただく
わたしたち